

編集・発行  
熊本県博物館  
ネットワークセンター  
宇城市松橋町豊福 1695  
TEL 0964-34-3301  
2018年3月15日

# 熊本の自然と文化

熊本県博物館ネットワークセンターだより



## イベント情報 (平成30年4月～)

### 博物館ネットワークセンター第6回企画展「くまもとの地質」

熊本県内を6つの地域に分け、それぞれの地域で採取した岩石・鉱物・化石を見ながら熊本県の地質を解説し、また、自分たちが暮らす土地の成り立ちや、その成り立ちと生活との関係について紹介します。

#### ○開催期間

平成30年5月27日(日)まで

※月曜(祝日の場合は翌日)は休館

#### ○会場

熊本県博物館ネットワークセンター 企画展示室

#### 【関連企画】

##### 1 地層の観察会

・開催日時 平成30年4月28日(土) 13:30～16:00

・場所 御輿来海岸および宇土マリーナ周辺

##### 2 展示解説会

・開催日時 平成30年3月25日(日)、5月12日(土) 10:30～12:00

・場所 熊本県博物館ネットワークセンター

※詳細については、博物館ネットワークセンターまでお問い合わせ下さい。



不動岩



ふとん岩

## 活動報告 (平成29年12月～平成30年3月)

#### 1 展示

(1) 博物館ネットワークセンター第5回企画展 阿蘇の植物 (12/5～2/25)

(2) 移動展示 荒玉地域昭和の祭りと芸能 (長洲町金魚の館 12/1～12/26)

#### 2 フィールドミュージアムへ飛びだそう!

水辺の冬鳥を観察しよう (宇城市大野川河口周辺 2/3)

#### 3 その他

(1) 平成29年度第3回博物館学芸員等スキルアップ研修会 (2/2)

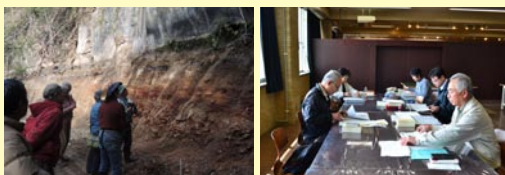
(2) 平成29年度第2回県内博物館学芸員等の総合プロデューサー育成研修会 (2/20)



企画展関連講座の様子

## センターからのお知らせ

ミュージアムパートナーズクラブに参加してみませんか？



さまざまなMPCが日々活動しています  
(左: 阿蘇火山調査会 右: 松橋地域史調査クラブ)

熊本県博物館ネットワークセンターでは、「ミュージアムパートナーズクラブ(MPC)」という団体が活動しています。さまざまな博物館活動に主体的に参加することで、熊本の自然や文化について楽しく学んでいけるクラブです。現在、阿蘇山や動植物、地域の歴史や文化に関する9つのクラブが活動しています。

熊本地震を契機に地域の自然や文化に対する関心が高まっています。みなさんも気の合う仲間と一緒に博物館活動に参加してみませんか？

詳しくは、熊本県博物館ネットワークセンターへお問い合わせ下さい。

No. 204  
植 物

イヌタヌキモ *Utricularia australis* (タヌキモ科)

イヌタヌキモ(写真1)は、池や溝などの水中に生育する食虫植物です。根はなく水底に固着もせず、水中を漂いながら生活する浮遊植物です。花の時期は夏で、水面に花茎を伸ばし黄色い花を咲かせます。



写真1 イヌタヌキモの生育状況



写真2 イヌタヌキモの標本

写真2は、1991年に熊本市内で採集された標本です。このように

幅2mmほどの細い軸が長く伸びた細長い草姿をしています。この標本では長さ30cm程度ですが、より長くなることもあるようです。イヌタヌキモは食虫植物で、こまかく細く分裂した葉に、小さな丸い捕虫囊のうをたくさんつけています。この捕虫囊は吸い込んで獲物を捕らえるタイプで、捕虫囊の近くにきた水中の小さな動物を吸い込み消化してしまいます。また、葉の根元から軸が伸び、枝分かれした姿になります。これらの軸の先端には、夏の頃から大きく膨らんだ芽の様なものができはじめます(写真2、矢頭)。

これは、殖芽しよくがもしくは越冬芽と呼ばれるものです。冬期に植物体が枯れても、この殖芽で越冬すると考えられています。(前田哲弥)

No. 205  
地 学

長者だごかざんまめいし (火山豆石)



写真1 長者だご

山鹿市菊鹿町黒蛭くろむし周辺では、天然の土団子(写真1)の入った地層(写真2)があります。この土団子は、肥後国誌では禹餘糧うよろう、菊鹿町史では長者だごと記されており、「黒蛭の米原長者が田植えの時にふるまったおやつの余りの団子を捨てたところ土になった。赤色で割って見ると黒色の餡あんが出る。俗に団粉土という。」という話が伝わっています。

写真1の土団子はいびつなものもありますが、概ね直径2~3cmの球に近い形をしています。また、左上の土団子の断面を見ると、中心に周辺より濃い色の餡が入っているのが確認できます。では、なぜこのような土団子ができたのでしょうか。

この土団子は火山豆石といい、火山灰が球状に集まったものです。この成因については、火山の噴煙に含まれる水や雨粒などに火山灰が集まって固まったという説や、堆積した火山灰に水滴が落下したり転がったりして火山灰が付着して固まったという説など、いくつか考えられています。この火山豆石は、約12万年前と約9万年前に阿蘇火山から噴出した2つの巨大火砕流の堆積物に挟まれた火山灰層に入っています。(廣田志乃)



写真2 地層の中の丸い物が長者だご



No. 206  
民俗

藁の履物

ぞうり あしなか わらじ  
草履・足半・草鞋

草履は日常的に使われていた履物です。県内では竹の皮や七島藁などを利用したものがありましたが、農家で広く使われていたのは稲藁で編んだ草履でした。写真1のように鼻緒に布を使うと、丈夫で切れにくく、見た目も綺麗になり、また自分の草履の目印にもなりました。

足半は長さが足の裏の半分ほどで踵のない草履です。鼻緒の結び目が角のように見えることからツノンボウとも呼ばれていました。爪先に力が入りやすく、すべりにくいので、農作業や雨の日の外出、川漁などで履きました。労働に使用されることから、天気の良い日でも七日、雨天なら三日位しかもたないので、農家では早朝や夜半を利用してたくさん作っていました。



写真1 (左から) 草履 20 × 7 × 1cm・足半 15 × 7.3 × 1cm・草鞋 25 × 8 × 3cm  
下益城郡美里町小筵



写真2 ゾウリツクリダイ 70 × 12 × 26.5cm  
玉名郡和水町瀬川

草鞋は紐を足首に巻き付けて足にぴったりと固定させる履物です。草履よりも疲れにくいので、遠くに出かけるときや山に登る時などに履きました。

藁の履物を作るには、両足を伸ばして座り、足の両親指に芯となる小縄をかけ、よく叩き柔らかくした藁を手前から差し込んで編んでいきます。長時間この姿勢で作業するのは疲れるため、写真2のような自作の編み台も用いられていました。(迫田久美子)

No. 207  
動物

オオイタサンショウウオ *Hynobius dunni* (サンショウウオ科)



写真1 オオイタサンショウウオ標本

オオイタサンショウウオ(写真1・2)は、最大で全長17cmほどになる比較的大型の止水性サンショウウオで、大分県のほか、熊本県、宮崎県、高知県の一部に生息しています。熊本県では阿蘇地域東部の大分県との境界付近に生息地が限定されており、熊本県版レッドリストでは絶滅危惧I B類とされています。

写真1の標本は高森町で採集されたものです。県内には止水性サンショウウオとして、他にカスミサンショウウオが生息しますが、オオイタサンショウウオはこれよりも明らかに大型で、カスミサンショウウオでよく見られる尾の黄色いふちどりがありません。

成体は普段、林床の落葉中や石の下で小さな虫などを食べて生活しているため、なかなか見る機会がありませんが、冬になると水田、池、水たまりなどに集まってきて繁殖を行います。卵のうは水中の落枝などに産みつけられ、条件のいい繁殖場所では、落枝に卵のうが鈴なりについていることもあります。



写真2 雄の成体と卵のう(高森町)

冬の阿蘇地域は厳しい寒さが続き、水辺では水面が厚い氷で覆われる日も少なくありません。しかしその氷の下では、オオイタサンショウウオたちの命のリレーが人知れず行われているのです。(中蘭洋行)

No. 208  
歴史

野砲兵第24連隊関係資料

野砲兵第24連隊（以下第24連隊）は、明治40年（1907）に編成され、その後、第12師団所屬となります。もともと第12師団は小倉に駐屯していましたが、大正14年（1925）に久留米に移駐、昭和6年（1931）に熊本県下で開催された陸軍特別大演習では北軍として第12師団及び第24連隊も参加し、熊本に駐屯していた第6師団率いる南軍と演習を行っています。昭和11年（1936）から満州駐箚。昭和15年（1940）になると久留米から満州へと駐屯地が変わり、その頃、満州を守備していた第3軍の指揮下で東寧に移り、第24連隊も同様に満州国内の治安維持活動に従事しました。



写真1 駐滿記念写真帖

戦局の悪化した昭和19年（1944）になると、連合軍の台湾上陸に備えるために、第12師団は台湾に派遣となり、台湾の警備に当たっていましたが、連合軍は、沖縄へ上陸したため、台湾で戦うことなく、終戦を迎えています。同様に、第24連隊も台湾に派遣されましたが、一部の部隊はカロリン群島ヤップ島に派遣され、それぞれの地で終戦を迎えています。

写真1は、第24連隊名で作成された「駐滿記念写真帖」です。この写真帖は、作成された年代は不明ですが、タイトルに「駐

滿記念」とあることから、第12師団の満州駐箚が始まる昭和11年頃か、駐屯地が久留米から満州に変わった昭和15年頃と考えられます。

写真帖には、家族写真の他に兵士の日常生活を写したものや兵士の集合写真があり、また戦地での風景写真なども貼られています。

写真2は、撮影時期は不明ですが、第24連隊で三池炭鉱四山坑（熊本県荒尾市）を見学した際に撮影された集合写真です。この写真には、「野砲二四 四ツ山炭坑見学」や5人の人物名が書かれています。そして、後側にある建造物は、堅坑櫓と呼ばれる石炭や坑員を昇降するためのもので、すでに平成8年（1996）に解体されています。

戦前や戦中に残された古い写真を読み解くことで、現代に生きる私達が知らない当時の様相を知ることができます。もし、古い写真を持っている場合は、是非読み解いてみて下さい。

（堤将太）



写真2 野砲兵第24連隊四山炭鉱見学

熊本県博物館ネットワークセンター

〒869-0524 宇城市松橋町豊福1695  
TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302  
Email hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp  
HP <http://kumamoto-museum.net/kmnc/>

〔公共交通機関〕

九州産交バス 松橋バスターミナルより宮原経由  
八代市役所行き「希望の里入口」下車  
徒歩3分

J R 松橋駅より約3km

